

GUNMA
HOUSING
AWARD
2018

最優秀賞

繋ぐ家

〈つなぐいえ〉

設計者 徳井正樹建築研究室

施工者 株式会社 数寄屋建設

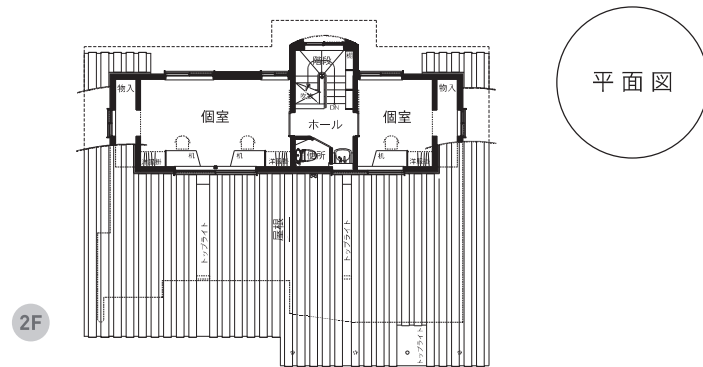


CONCEPT

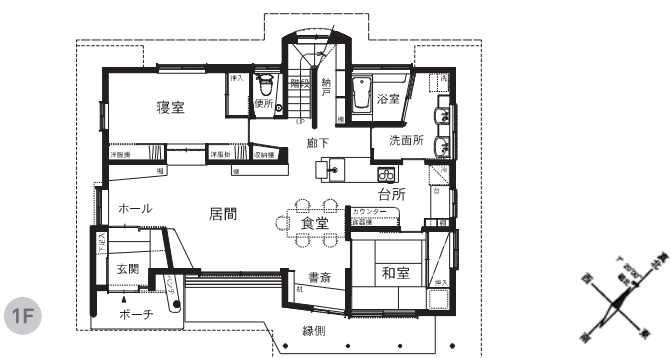
設計主旨

「繋ぐ家」に託したのは、人の繋がり、言葉の繋がり、素材の繋がり、記憶の繋がりです。甘楽町の瓦屋と建主との出会いから始まったこの家づくりは、陶芸家、木工作家、設計者、工務店と繋がり、そこに大工、左官、建具ら建築のプロたちが集いました。繋がりのもとめ役は設計者。家づくりに携わる多くのプロ達に、「建主の子どもたちにプロとして胸を張れる仕事を残したい」と思ってもらえる土俵作りが私の役割の根幹でした。設計者は自らの創意工夫を前面に出すところですが、この家づくりのテーマは「繋ぐ仕事」。そのためには、面倒な工程が「なぜ求められるのか？」を職人一人一人に説明しなければなりません。例えば、建主の目の前で製材された天井板が、光る反射板となって家族を照らすため、僅かに反らして張り上げたい設計者の意図を、棟梁に根気よく説明しました。その甲斐あって現場全員が理解と意気込みを共有し、皆で竣工に向かいました。

手摺の手触り一つでも子どもたちの記憶は永く残ります。家族の夢の大仕事を託される住宅設計者には、秀でた設計法を詰め込んだ図面を描けば描くほど、それを具現化してくれるプロたちに感謝と敬意を持って現場入りしなければ、永く愛される家は実現できないと考えています。



2F



1F

平面図



REVIEW

講評

静かな農村の一角、石垣の上に見上げるように佇む、ひと目でディテールの良さを感じ取れる2階建ての木造住宅。県産の能瓦を施した深い軒のある屋根が特徴的である。聞けば秋田杉を現地選抜し、そのこだわり素材を施主・設計者・施工者が三位一体となり実現することができたとのこと。施主の笑顔からその喜びの大きさを強く感じとれ

る。図面上では一見単純そうな間取りではあるが、現地にて微妙な寸法・角度調整がされている実に丁寧な設計で住まい手への配慮が随所にみられることがわかった。また、手間を要する納め、仕上りがすばらしく、実にいい表情を放っている。施工精度の高さと熱意を感じずにはられない。「ぐんまの家」最優秀賞としてふさわしい作品である。